

花火・火遊びからの火災を防ごう！

しょうぼう
の広場

の広場

火災、救急、
救助は・・・
119



火災が起こったとき、真っ先に危険にさらされるのが「子どもたち」です。子どもの火遊びなどで「まさか」ということにならないためにも、日頃から子どもたちに火災の恐ろしさと火災予防の大切さを教え、理解させておくことが大切です。

夏休み前にもう一度、子どもたちと火の取扱い・火災の恐ろしさについて話し合ってみましょう。

花火は大人と一緒に

夏の夜の楽しみ「花火」毎年子どもたちにとつて楽しい季節がやってきます。この夏の風物詩「花火」を楽しむ思い出するためにも、次のことを守りましょう。

- ☆花火火災防止の4か条
- ① 広くて安全な場所を選ぶ。
 - ② 水バケツを用意する。
 - ③ 子どもだけで絶対に花火をさせない。
 - ④ 風の強い日は花火遊びはやめる。

火あそびはぜったいにダメ！

ライターは
おもちゃじゃないぞ！



- 火遊びは絶対にダメ。子どもの火遊びによる火災は、大人がいない時や目の届かない場所で発生することが多いため、発見が遅れ、火災が大きくなることがあります。
- 親や周りの大人たちが、次のような点に注意を払い、子どもの年齢に応じた防火教育をしていきましょう。
- ☆火遊び防止の5か条
- ① 火遊びをしているのを見かけたら注意する。
 - ② 子どもだけで火を取り扱わせない。
 - ③ 子どもだけを残して外出しない。
 - ④ 火災の恐ろしさ・火の取扱いについて教える。
 - ⑤ ライターなどを子どもの手の届く場所に置かない。

火遊びは絶対にダメ

梅雨・台風に備えて

川内川水防演習参加

5月22日、薩摩川内市の川内川河川敷で、平成17年度川内川水防演習が開催され、さつま町から宮之城西部方面隊、鶴田方面隊、薩摩方面隊、さつま町消防本部が参加しました。

演習は、活発な梅雨前線の活動で、平成5年の8・6水害相当の被害が出る恐れがあるとの想定で行われました。参加した各団体は、シート張工や木流し工など現場の状況に応じた各種の水防工法をテキパキとした動きで実施しました。



蓋段工を実施する薩摩方面隊水防団

消防一口メモ

暑い夏です

「熱中症」

梅雨明けを間近に控え、夏本番を迎えるこの時期に注意が必要なこと、それは「熱中症」への備えです。熱中症は時には命にかかわることもある大変危険な病態です。環境に応じた休憩や水分補給、体調が悪いときには無理をしないなどの対策で発症する前に予防しましょう。

また、発症したら、休憩する・体を冷やす、意識があれば水分補給などの応急手当が必要です。

5月の救急・火災情報



救急

- ◆ 出動件数 79件
- ◆ 運んだ人 74人
- ◆ 内訳
 - 急病 45件 41人
 - 交通事故 12件 12人
 - その他 22件 21人

火災

- ◆ 出動件数 2件
- ◆ 内訳
 - 林野 1件
 - その他 1件